

◆ 平成 27 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：戸田ボートコース水質浄化実行委員会

代表者：会長 神保国男

URL：<http://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/211/kankyo-seisaku-suisituzyouka.html>

1. 活動が必要とされた状況

東京オリンピック(昭和 39 年)でボート競技会場となった戸田ボートコースは、ボート競技のメッカであるとともに、水と緑に触れ合うことのできる憩いの場となっている。しかし、閉鎖水域であり、オリンピック以降、水の入替えが行われないことから、水質の汚濁が進み、近隣住民やボート競技者から水質改善の声があがっていた。このため、水質改善が急務であることから、埼玉県ボート協会が先陣を切り、平成 18 年度から、関係機関の協力を得ながら水質浄化能力が高いとされる「イケチョウ貝」という二枚貝を利用した水質浄化活動を進め、現在まで約 7,000 個のイケチョウ貝を投入している。

2. 活動の内容(実施時期、参加人数、活動内容など)

- ・イケチョウ貝を 800 個投入し、月 1 回程度定期点検を行った。
- ・水質浄化の効果を調べるため、週 1 回程度水質調査を行った。
- ・啓発用パンフレットをリニューアルし、3,000 部増刷し、市内公共施設等に配布した。
- ・とだグリーンウェイブ 2015・環境月間展示、戸田市立郷土博物館第 31 回特別展にて、イケチョウ貝の取り組みの展示を行った。
- ・2 月 27 日(土)戸田公園管理事務所にて、アクセサリ教室を開催し、30 人の参加があった。真珠を使いピアスやキーホルダーを作ったり、水槽を使った水質浄化実験などを行った。



3. 活動の成果

- ・助成金を活用したことで、イケチョウ貝を通常の投入数より 300 個増やすことができ、合計 800 個投入することができた。戸田ボートコースは非常に広いため、水質改善の兆しは微々たるものであるが、継続的に調査している濁度の経年変化を見ると、高い値(濁っている状態)を示す日が減少している傾向が見られた。また、実際に水面の透視度を測る器具を用いたところ、平均的に 1 m 先まで目視で確認することもできており、以前に比べ透視度も向上してきている。
- ・イケチョウ貝という生き物を活用し、生態系に配慮して浄化を図る取り組みであることから、市民に対し、生物多様性のメリットを伝えることができた。
- ・イケチョウ貝を使った水質浄化活動という先進的な取り組みであり、活動場所が東京オリンピックのボート競技会場であるという知名度に加え、副産物として淡水産真珠が採取できる魅力、の三点が有機的に連携したものである。このことから、水質浄化に関心のある自治体や各メディアが関心を持っており、戸田市の PR につながった。

4. 今後に残された課題

本活動は、ボートコースの規模や費用の面から、短期間で効果を上げることが難しい。そのため、息の長い活動であることを理解し、継続していくことが非常に重要である。活動が頓挫しないためにも、積極的にイケチョウ貝から採れる真珠などを活用した本活動の PR を手段として、多様な主体を巻き込んでいくことが検討課題である。